

実施状況

男女平等の視点に立った職業観についての考えを深め、自分らしい生き方をしようとする態度を育てたいという思いから授業展開の仕方を考えました。価値の導入をクイズ形式にすることで、職業によって、「これは男性の仕事」、「これは女性の仕事」という意識を少なからず持っていることに気づかせることができました。職業に「男性の仕事」・「女性の仕事」という区別は必要かという質問に対しての考えを発表させ、価値の揺さぶりを図りました。その後、男女雇用機会均等法を提示し、求人広告上の誤りを訂正する活動を取り入れることにより、差別について考えさせました。また、どうして男女の雇用機会を均等にすることが必要となっているのかを考えさせることで、性別の違いよりもその人自身のやる気や希望、能力などのよさが生かせるようにすることが大切であることに気づかせたいと考えました。

児童・生徒の感想

- ・ 私は、初めは性別による職業の区別が必要だと思っていました。でも、今日の授業で考えてみて、性別にこだわらずに自分のやりたい職業につくことが大切だと思いました。
- ・ 男性の仕事、女性の仕事というイメージを気にする人もまだいるけれど、イメージを気にしないで誰もがやりたい仕事につけることが広がるといいなと思いました。
- ・ 力仕事は男性がやるというイメージがあったけれど、女性で力仕事がしたいと思う人がいればやっていいと思います。この授業を通して、仕事に性別の違いは関係ないと自分の考えを改めることができました。

参観者の感想

- ・ 日常生活の中の、性別による差別は、何となく分かっているのだと思うのですが、職業について性別に差別があるという意識が弱いように思います。今日の授業は、近い将来、社会に出て働くことになる子どもたちにとって、とても大切なものだと思います。機会あるごとに指導していただければと思います。
- ・ 導入のクイズは、生徒の先入観を上手に使った内容でとてもよかったと思います。「男だから」、「女だから」と昔はよく言われていたが、現在は生徒の反応からあまり言われなくなってきていると感じました。そういった意味では、男女共同参画社会が理解されてきていると思いました。価値の追求の場面で、もっと生徒同士の意見交換の時間をとり、価値について深めていけるとよかったのではないかと思います。

指導者の感想

「女だから、男だから」ではなく、自分のよさを見つけ、自分の個性を生かすことができる将来の仕事を選択しようとするのが大切です。そのような視点に立った職業観を深めさせ、自分の生き方について考えさせたいと思いこの授業を構成しました。「大型トラックの運転手は男性の仕事」といった職業への先入観をもとに、どうしてその仕事がそういったイメージなのかを考えさせることにより、職業選択のなかにある区別とは違う差別に目を向けさせることができたのではないかと感じました。また、男女が同じ職場で共に働くことのよさなども例をあげて紹介することで、自分らしさを生かせる職業選択をしたいという意欲がより高まったように思います。